

# 人となられた知恵

シリーズ～神の知恵～

2018/12/9 アドベント第2週

# ヨハネ福音書1章1～18節

初めに言(ことば)があった。言は神と共に  
あった。言は神であった。この言は、初めに神  
と共にあった。万物は言によって成った。成っ  
たもので、言によらずに成ったものは何一つな  
かった。言の内に命があった。命は人間を照ら  
す光であった。光は暗闇の中で輝いている。暗  
闇は光を理解しなかった。

…その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。言は世にあつた。世は言によって成ったが、世は言を認めなかつた。言は、自分の民のところへ來たが、民は受け入れなかつた。しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである。

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。…わたしたちは皆、この方の満ちあふれる豊かさの中から、恵みの上に、更に恵みを受けた。律法はモーセを通して与えられたが、恵みと真理はイエス・キリストを通して現されたからである。いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである。

# 口ゴス？

- ・ 「言(ことば)」とはギリシャ語では“**口ゴス**”
  - “口ゴス”とは、当**時**ギリシャ**哲**学で使われていた、「**宇宙を生み出し支配する原理**」のこと
  - ヨハネは**人**物を表す言葉として使っている
  - 「**カシコイモノゴザル**」(最古の日本語訳)
- ・ ヨハネは、受肉前のキリストを表現するためにこの言葉を用いた
  - 決して「言葉」「言語」という意味ではない！
  - キリストは生まれる(人となる)以前から、存在されていていたことを説明したかった
  - 「**知恵(ある方)**」と訳すこともできる

# ロゴスを「知恵」と訳すと

最初に知恵があった。知恵は神と共にあった。知恵は神であった。この知恵は、最初に神と共にあった。万物は知恵によって成った。成ったもので、知恵によらずに成ったものは何一つなかつた。知恵の内に命があった。命は人間を照らす光であつた。…暗闇は光を理解しなかつた。

知恵は世にあつた。世は知恵によって成つたが、世は知恵を認めなかつた。知恵は、自分の民のところへ來たが、民は受け入れなかつた。しかし、知恵は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。

# 「知恵」は？

- ・ 知恵は神である
  - 「**最初に知恵があった**」: この世界のはじまる前
  - 「**知恵は神と共にあった**」: 対等であった
  - 「**知恵は神であった**」: 今もあり続いている
- ・ 知恵は創造主である
  - 「**万物は知恵によって成了った**」: 存在させられた
  - 「**知恵によらずに成了ったものは何一つなかつた**」:  
一つ残らず知恵が産みだしたことを強調
- ・ 知恵のうちに命がある
  - ここでの命は「**永遠の命**」のことである
  - この命こそ「**人間を照らす光**」である

# 「知恵」は世に来られた

- ・ 知恵は世(人間)に来られた

- 「知恵は世にあった」: 実はあり続けた
- 「知恵は自分の民のところへ来た」: ご自分が造り、存在させている人間のところへ来た
- 「知恵は肉となって、わたしたちの間に宿られた」: 人間と同じ「肉」をまとわれ住まれた

- ・ 世は知恵を拒絶した

- 「暗闇は光を理解しなかった」: 分からなかつた
- 「世は知恵を認めなかつた」: 知ろうとしなかつた
- 「民は受け入れなかつた」: 拒絶した>殺した

# それなのに「知恵」は

- ・「しかし、知恵は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。」
  - 「受け入れる」とは「**その名を信じる**」こと: キリストを神・創造主として信じること
  - 信じるだけで、なんと**「神の子となる資格」**が与えられる! <かろうじて裁きを免れるのではない
- ・「わたしたちは皆、この方の満ちあふれる豊かさの中から、恵みの上に、更に恵みを受けた」
  - 「**満ちあふれる豊かさ**」: 想像を超えた豊かさ
  - 「**恵みの上に、更に恵みを**」: 恵みの大盤振る舞い

# 神の知恵が現れた!

「律法はモーセを通して与えられたが、恵みと真理はイエス・キリストを通して現れたからである。いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである。」